

北のぶら



HOKKAIDO
ARTS FOUNDATION

特集

コミュニケーション教育フェスタ2011
《東日本ブロック》関連事業

インタビュー×ステージ

シアターラボ

プレ公演

No.

92

MARCH 2012





『みえる空気』 (H120×W300×D6cm) 布、綿、ビーズ、原毛 2011年 ※

ただそれだけの出来事

空間、風、影、布、リボンなどを使い、場面づくりをしています。木々の揺れをみることで、風が確認できること。頭上を去る鳥の影を見送ること。音がしたがどこにいるかわからなかった、気のせいのような存在。日々の中での、ほんのささやかなこと。ただそれだけの出来事、出会いが心に残り、時々、ふとした瞬間に映像のように、場面として現れてきます。それは、心をおだやかにしたり、高揚させてくれたりします。

その出会いの間にうまれた雰囲気(空気)、見えないものをみる(感じる)ための、しかけのような、きっかけのようなものをつくりたい。

誰かにとってもその場面が、心をちらりとかすめる、大切な時間であればいいなと思っています。(経見)

Art Gallery

Vol.23 造形

北海道のアートシーンを担っていく
若手アーティストを、
紹介します。

北のとびら

ロゴのコンセプト

生きる勇気と喜びをもたらす
文化の普遍的なチカラ
“精神的な豊かさ” “活気” “感動”を
3つのプラスで表現しています。

No.

92

MARCH 2012

東日本大震災の被災者の皆様に
心よりお見舞いを申し上げます。
北海道文化財団は、文化芸術活動を通じて
さまざまな支援活動に努めています。

表紙協力／平成23年度北海道舞台公演
シアターラボ「プレ公演」より



「途中のトンネル(部分)」 (部分H20×W15×D10cm 他) 布、綿、リボン、真鍮棒、磁石、ビーズ、スピーカー 2010年

02 アートギャラリー [第23回]
梶見 菜々子 (造形作家)

04 インタビュー×ステージ
「シアターラボ」プレ公演

特集

08 コミュニケーション教育フェスタ2011
《東日本ブロック》関連事業

10 地域からのお便り
・浦幌町／アート体感教室

11 アートのチカラ
・福島県 いわき市

12 この街この人 [第19回]
真狩村

14 共催事業レポート
帯広市／(財)帯広市文化スポーツ振興財団 他
釧路市／(財)釧路市民文化振興財団 他

15 Information

「北のとびら」は、全道の文化ホール、文化施設などで
ご自由にお持ちいただけます。
※定期的に購読をご希望の場合、当財団へお問い合わせください。



緑と地球環境保護のため古紙100%の再生紙と
植物油インキを使用しています。

表紙写真／原田 直樹



「微風(部分)」 (部分H200×W226) ガーゼ、アクリル絵の具、レース、香り 2007年 ※

※撮影: 小牧典聖



造形作家

梶見 菜々子 Kashimi Nanako

札幌市在住。北海道女子大学短期大学部工芸美術学科卒業。2009年個展「運れてくる風」(CAI02/札幌)、雪国の草—N40°以北の日本の作家達—(M50 Vanguard Gallery/上海/中国)、2007年個展「微風」(TEMPORARY SPACE/札幌)、2006年「北の創造者たち展—Lovely」(札幌芸術の森美術館/札幌)



マンホール
リリカル・パレット「Man-Hall」



intro「言祝ぎ」



パインソー
Paingsoe
「微睡っこしいの、」

平成23年度北海道舞台塾公演

シアターラボ

プレ公演 2012 1/21 SAT. 22 SUN
AT CONCARINO

主催：北海道舞台塾実行委員会 北海道 財団法人北海道文化財団
後援：北海道教育委員会 札幌市 札幌市教育委員会

写真/徳田 直樹

プレ公演を経てブラッシュアップ
した作品を上演します。

平成23年度北海道舞台塾公演
シアターラボ 本公演
2012 3/7~11 SUN

	3/7(水)	3/8(木)	3/9(金)
20:00	intro★	パインソー★	リリカル・パレット★

★3/7~9は公開ゲネプロ

	3/10(土)	3/11(日)
14:00	リリカル・パレット	intro
16:30	パインソー	リリカル・パレット
19:00	intro	パインソー

料金 前売1,500円 3公演セット券 前売のみ3,000円
当日1,800円 ☆公開ゲネ1,000円

チケット 発売 ローソンチケット、チケットぴあ、
大丸プレイガイド など

会場 生活支援型文化施設コンカリーニョ

参加者選定のため、11年10月に応募を開始。応募のあった脚本から6本に絞られ、同年11月の面接によって、

道内の若手演劇人のスキルアップのため、道外で活躍している劇作家・演出家3名をドラマドクターに迎えて、脚本、演出などに指導をしてもらっています

道内の若手演劇人のスキルアップのため、道外で活躍している劇作家・演出家3名をドラマドクターに迎えて、脚本、演出などに指導をしてもらっています

平成23年度北海道舞台塾公演として企画された「シアターラボ」は、広く北海道民に質の高い演劇を提供し、演劇文化の浸透と活性化を図るとともに、地域の舞台芸術を担う人材育成を目的として、演劇公演の創作をおこなっている「北海道舞台塾」による、新しい試みです。

3名が選ばれました。ドラマドクターから脚本の手直しなどを受け、1月のプレ公演で上演。さらにブラッシュアップさせた作品を3月に上演します。

道外で活躍する3名のドラマドクターとともに、道内3人の若手劇作家・演出家たちが舞台を創り上げていく、「シアターラボ」プレ公演が、生活支援型文化施設コンカリーニョで2日間にわたっておこなわれました。

ドラマドクターとは

別名ドラマタッグ。演出家の傍で主に脚本・演出についてのアドバイスをする職業のこと。プロデューサーのように予算や配役にとらわれず、純粋に芝居としての完成度を高めていくための脚本手直しや、伝えたいことが演技に反映されているかのチェックをおこなう。アメリカ・ブロードウェイで、70年代から注目されるようになった比較的新しい演劇の仕事で、日本での認知がこれから期待される。



イトウ まだまだ終わった感じがしないです。劇作の経過を見せるという、プレ公演がはじめてだったもので、でも、今日からだと思っています。あれだけアフタートークでダメだしをしてもらって、「これからどうするの」ってお客さんと思っただけ。そこを出発点にしようと思いました。

畑澤 自分がイトウさんの立場だったら、つらいと思う。でも、作品の素材自体も、素材に関するサジェスチョンも、お客さんにみてもらったことで「演劇をどうつくり、どうブラッシュアップするのか」ということがわかっていただけたんじゃないかと思っています。

イトウ いろいろ指摘されましたけど、自分でも変だと思っていたことも、気づいていないこともありました。でも、言われたことのほうが面



ドラマドクターは芝居を左右するからこそ、責任がある



白いと思ったら、絶対そちらの方に書き直します。

畑澤 よく、人の作品をみて「俺だったらこうする」っていう人がいますが、イトウさんの伝えたいことを、どうしたら面白く表現できるのか、と考えなければいけない。だから、アドバイスを聞くなら、劇団の先輩や、地域の中で信用できる師匠筋の方など、演劇をみる目のある人がいい。そういう人がいる地域は、演劇が伸びていくんです。そういう意味で、ドラマドクターのような、プロからの批評っていうのは大事だと思う。

イトウ 実際に演劇をやっているも、そうそう他の演出の方から、感想やアドバイスを言われないんです。でも、私は言われなくてしょう



がなかった。

畑澤 こうしたほうがいいっていうのは、結構難しいこと。それで芝居がダメになることもある。ドラマドクターは、これから必要とされてくる仕事だけど、そういう責任もあるので、気をつけながら3月に向けて続けていきたいですね。

あらすじ

元旦に実家に集う三姉妹。新しい歳を祝うはずの日だが、8年前、もちを喉につまらせる事故で父親を亡くしてから、長女は難癖を作った自分を責め続け、正月を祝うことができないでいる。使われないままのたくさんの食材が詰め込まれた冷蔵庫。自分を許すことができない姉と、それを見守っていく妹たちの会話劇。



劇作家・演出家／青森
畑澤 聖悟 Hatasawa Seigo
PROFILE

劇団「波辺源四郎商店」店主。2005年、日本劇作家大会短編戯曲コンクール最優秀賞受賞。現役の高校教員で演劇部顧問。指導した青森中央高校演劇部を2度の日本一に導く。



作・演出
イトウ ワカナ Ito Wakana
PROFILE

2006年、「Intro」を結成し劇作家、演出家としてのスタートを切る。普遍的な家族の会話劇や、コンテンポラリー演劇と評される詩的作品を製作するなど、作品性は多岐に渡る。



▲intro「言祝ぎ」はリーディング公演としておこなわれました。



Paingsoe

「微睡っこしいの、」

この脚本には、書く
動機があると思った

福原 山田君を選んだのは、ものをつくるときの動機があるかどうかで決めました。華やかそうな世界だからとか、お金だとか、人はいろいろな理由で脚本を書くわけです。でも、それ以上の動機が大事。そういう意味でこの芝居は、何かの動機があると感じました。だってこの芝居は、少なくとも、分かり易くはないです、それでもお客さんにみせたいというのには業が深いんだな。それは、この世界では必要なことなので、そこに魅力を感じました。

山田 いつもは、別の人に脚本を書いてもらっていて、演出だけ、がんばろうと思っていた。でも、それは違うんじゃないかと思い始めて、「シアターラボ」に応募したんです。それで福原さんにアドバイスをいただいたら、「ここまで考えるのか」というサービス精神にすごい衝撃を受けました。最初から、とにかく「わかりやすく」と言われたんです。着眼点が常に「お客さん目線」というのが、今までの自分と違うんです。

福原 今回は客層も分からないし、お客さんによって、やるべきことが全然違うから、これまではあまり深くは言えなかった。でも、今いるお客さんに全部伝われば、その人が別のお客さんと呼んでくれると思う。

山田 もうひとつ、言われて納得したのが、演出の方法のこと。役者は、演出のアイディアを演技するだけですが、もつと意見を出し合ったほうがいいとアドバイスされました。

福原 役者がもつと読む作業をしたうえで「このシーン、こういう方向でつくっておいってください、あとでみます」と、任せられるようにすればいい。それができれば、それぞれのシーンをもつと細かく演出できるはずです。

山田 3月の本公演まで、そういうスタイルでやろうかなと思います。内容も含めて、繰り返ししていきます。



脚本家・演出家／東京

福原 充則

Fukuhara Mitsunori

PROFILE

2002年、ピチチ5(クインテット)を旗揚げ、主宰と脚本・演出を務める。生活感あふれる日常的な光景が、飛躍を重ねて宇宙規模のラストまで結実するような物語づくりに定評がある。



作・演出

山田マサル Yamada Masaru

PROFILE

グラフィック・デザイナーとして活動する傍ら、映像制作などもこなす。1998年から劇団アンドへ参加・出演。ここ数年は脚本や演出も手がける。人間の欲望や業を打算的に描く作風が特徴。2009年からは「Paingsoe(パインソー)」を立ち上げる。



あらすじ 男は、気がつくマンホールの中にいた。そこで出会ったのは作家と刑事とニート。奇妙な状況で、奇妙なメンバーが向う先は、意外な事実だった。一方、マンホールの外では、女が会社の資料室にこもっていた。何を突き止めようとしているのか。二つのシチュエーションが変わる時、一つの事件の全貌が浮かび上がる。2010年4月に上演した作品をリメイク。



テーマや設定をどんどん掘り下げていけるパートナー

御笠ノ 最初に脚本を読んで面白いと思ったのが、犯罪被害者と犯罪加害者、両方の視点が入っていることでした。でも、加害者の設定が、物語を進行させるためにあるのが疑問に思っていたのですが、それは最初

の時点ですでに言っていたよね。

谷口 犯罪被害者・加害者という題材を、最初はいくつかにチョイスしてしまっただけ。それより先に、マンホールという設定がありました。なぜマンホールなのかというと、閉鎖された空間の中で、光を求めて上を見上げる構図が、人間の、もがきながら光を求める生き方とリンクするんじゃないかと思ったのです。もとは15分の芝居だったのですが、それから1時間半の作品にして、今回の1時間の作品にして、三度目の公演なんです。

御笠ノ 完全に代表作になっていると思う。自分の中で大事なテーマなんだらう。上から光が差す場面、あれはいい。僕は好きだ。



谷口 おそらく3月の公演は、マンホールの設定は活かして、それ以外の内容はかなり変わって来ると思う。

ブレ公演までの感想や、アイディアを御笠ノさんから聞いていく中で、別のテーマで組み立てたら、もっと面白くなるんじゃないかと思いましたが、でも、犯罪被害者のテーマも、よりよく表現できるようにになってから、もう一度取り組みたいと思っています。

御笠ノ そういう成熟過程が、今日の舞台に出ていたね。谷口君とは、3月の公演限りの縁ではないと思っ

ているので、いつか練り直した作品をみるのも楽しみです。
谷口 ドラマドクターの御笠ノさんがいると、すごく助かります。僕は細かい設定を考えるのが苦手なんですけど、御笠ノさんは、僕がどう受け取るかということを、すごく尊重しながら細かくアドバイスをしてくるので、自分にはすごく合っていました。今回の企画は、自分の変化を、自分で実感できるいい機会です。

作・演出
谷口 健太郎 Taniguchi Kentarou
PROFILE

2004年に演劇集団「プラズマニア」を旗揚げ、演出・脚本・出演を務める。2010年、エンターテインメント性を重視したソロ・プロジェクト「リリカル・バレット」で活動を開始。



演出家、劇作家／東京
御笠ノ 忠次 Mikasano Chuji
PROFILE

高校卒業後、「劇団1980」に所属。同劇団退団後、「SPACENOID」の作・演出家として本格的な活動を開始。2010年より、「SPACENOID」の活動を休止し、プロデュースユニット「案山子堂」を始動。

リリカル・バレット
マンホール
「Man-Hall」

(財)北海道文化財団

「アートゼミ/アドバイザー派遣」連携事業

コミュニケーション教育フェスタ2011

《東日本ブロック》関連事業

「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」の実践に向けて

平成23年11月18日(金)・19日(土)・20日(日)



「コミュニケーション教育フェスタ2011」は、子どもたちのコミュニケーション能力の育成に資するワークショップ事業についての理解と普及を目的として実施されました。

当財団ではその関連事業として、「児童生徒のコミュニケーション能力の育成に資する芸術表現体験」の実践に向けて、普及啓発のワークショップ等を実施しました。ここでは前号に引き続き、文部科学省によるコミュニケーション教育についての説明(抜粋)と、当財団の関連事業の内容を紹介いたします。

子どもたちのコミュニケーション能力を育むために

「話し合う・創る・表現するワークショップ」への取組

コミュニケーション能力が求められる背景

21世紀は「知識基盤社会」の時代であるとともに、グローバル化が一層進む時代です。それは多様な価値観が存在する中で、自分とは異なる文化や歴史に立脚する人々とともに、それぞれ異なる意見や考え、アイデアなどを交換し、正解のない課題、経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代でもあります。

このような21世紀を生きる子どもたちは、積極的な「開かれた心」(自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に考え、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながら社会に貢献することが出来る個人)であることが求められます。

一方、子どもたちの現状や課題として、子どもたちは気の合う限られた集団の中でのみコミュニケーション

をとる傾向が見られ、また、コミュニケーションをとっているつもりが、実際は自分の思いを一方的に伝えているにすぎない場合が多いなどの指摘があります。

さらに、インターネットを通じたコミュニケーションが子どもたちに普及している一方、外での遊びや自然体験等の機会の減少により、身体性や身体感覚が乏しくなっていることが、他者との関係づくりに負の影響を及ぼしているとの指摘もあります。

新しい学習指導要領では、言語活動の充実の中で、コミュニケーションに関する能力や感性を育んだり、情緒を養ったりすることも期待されています。

コミュニケーション能力を、いろいろな価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、「対話をして情報を共有し、自ら深

く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力と捉え、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要です。

コミュニケーション能力を育成する手法・方策

コミュニケーション能力を学校教育において育むためには、①自分とは異なる他者を認識し、理解すること②他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと、④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れること、⑤正解のない課題に取り組むこと、などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要があります。

コミュニケーション教育の子どもたちへの効果には、次のようなものがあります。

- ふだんは見ることのない他者の一面を見いだしたり、自分と異なる状況を擬似的に体験したりすることで、他者認識や自己認識の力が向上する。
- 身体表現等を用いて相互に伝え合うことの喜びに気づき、少しでもうまく伝えたいという意欲により、「伝える力」が向上する。
- 子どもの良い面や優れた面が外部の大人(芸術家等)によって引き出されたり、子どもたちが互いに多面的に発見・評価したりされたりすることによって、自己肯定感と自信の醸成がなされる。

●他者認識、自己認識の力の向上「受け入れる力」により、子どもたち相互の人間関係が良好になり、学級の雰囲気改善されて、学級全体として学力が向上する。また、いじめや不登校、暴力行為などの問題の解決にもつながる。

また、教員への効果には、次の改善が報告されています。

- 教員にとって、通常の授業手法や評価方法を見直し、改善する機会となる。
- 学級の雰囲気の改善により、学級経営や学年経営が円滑に進むことが考えられる。

コミュニケーション教育の効果的な手法や方策として、実施に当たっては、

- グループ単位(小集団)で協働して、正解のない課題に創造的・創作的に取り組む活動を中心とするワークショップ型の手法をとること
- 演劇的な活動など表現手法を豊富に取り入れていること
- ワークショップの理論や手法を備えた芸術家等の外部講師が授業に参画すること

が大事となっています。

また、発表を目的とせず手段として位置付け、活動の過程を重視することが重要で、その際、ワークショップでは、「導入過程」「展開過程」「ふりかえり過程」という要素をもったプログラムを意識的に組んでいく必要があります。

(文部科学省からの「コミュニケーション教育推進会議審議経過報告」より抜粋)



1日目

「話し合う・創る」表現する
ワークショップの意義と課題

平成23年11月18日(金)

札幌市教育文化会館「402研修室」

参加者数・39名

講師／鈴木 仁也

コーディネーター／吉野 さつき

2日目

実践講座1／

「モデルワークショップ」の見学

中学2年生29名を対象に実施

実践講座2／

「モデルワークショップ」の振り返り

平成23年11月19日(土)

立命館慶祥中学校

参加者数・28名

3日目

実践講座3／ワークショップを
つくる

平成23年11月20日(日)

生活支援型文化施設 コンカリーニョ

参加者数・19名

講師／柏木 陽

コーディネーター／吉野 さつき

実践講座1・2

午前中の講座1では、柏木さんの進行で、中学生たちが後出しじゃんけん、2チームに分かれての鬼ごっこ、ジェスチャーしりとりなどのゲームに取り組みました。ゲームは柏木さん対全員からスタートし、ペアでのゲーム、2チーム対抗、グループごと、と変化していきました。最終的には、柏木さんが指定した4つの単語を使って、グループ毎に文章を作成し、それを表現するジェスチャー寸劇をつくる、というゲームに挑戦しました。

午後の講座2では、モデルワークショップの振り返りとして、柏木さんと吉野さんから、初めて体験するワークショップであれば、最低90分くらいの時間をかけて生徒たちとの関係の土台をつくりたいこと。さらに今回は最終的に、グループで何かを創るところまで非常にうまくいったケースであることなどの説明がありました。

参加した教育関係者・アーティスト・コーディネーター等からは、モデルワークショップの感想や、生徒が対立してしまった場合の進め方など、具体的な質問がありました。その後、グループディスカッションを行い、ワークショップの在り方についての意見交換が行われました。

実践講座3

参加者それぞれがワークショップのアイデアを考え、それについてグループディスカッションを実施。その後、各自のアイデアを1分間のプレゼンテーション形式で発表しました。柏木・吉野さんからのアドバイスや、関連した事例の紹介を受けて、再度、ディスカッションをし、アイデアをブラッシュアップ。企画プランニングから手順の検討、批評からの再検討・練り直しという「試す、練り直す、試す」を体験しました。

最後に、国が行っている「コミュニケーション教育の取組」は、教科の

ワークショップ
コーディネーター

吉野 さつき

Yoshino Satsuki

教育・福祉・ビジネスなどの現場で、アーティストによるワークショップを多数コーディネート。青山学院大学でワークショップデザイナーの育成にもたずさわる。

NPO法人演劇百貨店代表

柏木 陽

Kashiwagi Akira

全国各地の劇場・学校などで、子どもたちとともに独自の演劇空間を作り出している。兵庫県立こどもの館での中高生向けワークショップの進行など。盛岡市、熊本県などでも講師を務める。

文化庁文化芸術国際調査官・

文部科学省初等中等教育局

コミュニケーション教育

推進会議オブザーバー

鈴木 仁也

Suzuki Masanari

東京学芸大学附属高校教諭を経て現職。国際調査官として、文化審議会国語分科会の事務局を務めるほか、言葉やコミュニケーションに関するワークショップに関わる。

授業とは全く異なる概念からの組み立てが必要であること、教科の専門家である教員とともに、芸術表現の専門家であるアーティストが計画段階から関わることで、よりよいプログラムがつけられることを説明。参加者が「北海道でのコミュニケーション教育を共に盛り上げていこう」との気持ちが高まる場となりました。



◀厚内川で鮭を探す石川さんと子どもたち



From URAHORO

地域からの
お便り

地域でおこなわれているユニークな活動の紹介を、寄稿文でお届けします。

アート体感教室

かわりの中で子どもを育てる

浦幌町立厚内小学校校長 吉藤 清孝

写真家であり冒険家である石川直樹さんとの学習「鮭の一生ドキュメント」がスタートしたのは昨年9月。南北50キロに広がる浦幌町は、農作物の収穫や秋鮭漁の最盛期であった。この町では、地域関係者の支援をうけ、産業や文化を学ぶ「うらほろスタイル教育」が推進されている。厚内漁港の近くに位置し、広大な太平洋を望む本校でも「鮭」をテーマとしてさまざまな学習を進めてきた。

アーティストである石川さんとの出会いは、子どもたちにとって大きな衝撃であった。エベレスト登山や気球での冒険話は子どもたちの心を一瞬にして掴んだ。そして、鮭の一生をテーマにした写真絵本と一緒に作るという話は、子どもたちの瞳により一層の輝きを与えた。

まず、石川さんと一緒に自転車に乗って、厚内を探検した。ふるさとの豊かさを象徴する厚内川では、遡上する鮭を発見し、誰もが一心不乱にシャッターを切った。まさに、感動の瞬間である。番屋

では、漁師の仕事やそれを支えるお母さん方の姿を知った。

第1回目の学習の最後に出された「僕が知らない鮭（厚内）のことをたくさん教えてほしい。」という宿題は、子どもたちを更なるふるさと探求の冒険へと引き込んでいった。

子どもたちは、石川さんが知らない鮭のこと、厚内のことを伝えるために個々で取材を進めた。港や川、鮭の加工場に足を運び、父母や祖父母、地域の人たちに話を聞いた。自分たちの五感で感じたことを、自らの言葉で綴っていった。その一つ一つが誰にも真似できない、厚内小学校ならではのドキュメント作品となった。

この活動から、日常の1コマであっても厚内以外の人から見ると非日常であること、家族の仕事のすばらしさなどを学び、深く、多面的にふるさとの良さを認識することとなった。そして、約5カ月をかけて出来上がった作品は、ふるさと厚内の豊かさが凝縮された一冊になったのである。



浦幌町立厚内小学校校長
吉藤 清孝

平成23年4月より厚内小学校に勤務。ふるさとを愛し、明日に夢をもつ学校づくりをめざして地域と連携し「鮭学習（鮭の受精体験、燻製づくり）」を中心とした教育活動を推進している。

石川さんは「これまでの鮭の本に出てくることとは絶対に違う。これまでの本では、わからなかったことがたくさん入っている絵本になる」というメッセージを残した。それは、ともに作品を創りあげた子どもたち、そして教職員にとっても最大の讃辞であった。

子どもたちは多くの人々と出会い、かわりの中で成長していく。石川さんとともに学び遊んだ日々は、子どもたちや教職員にとって大きな財産になるであろう。そして、これからも、ふるさとを愛し、明日に夢を持つ子どもたちが育っていくことを強く願っている。

北海道文化財団 自主事業 実施レポート

アルテポルト（アートで賑わう港 ミニートーク

「アルテポルト」で、その月の展示作家によるミニートークをおこないました。

12月

展示作家 國松明日香

実施日 平成23年12月16日（金）

入場者 20名

「2012 寄港展」

平成22年9月からスタートした「アルテポルト」の出品作家、15人が港をテーマにした、15冊サイズの作品を持ち寄り展示しました。

実施日 平成24年1月10日（火）～31日（火）

アート体感教室

石川直樹「鮭の一生ドキュメント」

浦幌町

講師 石川直樹（写真家・冒険家）

実施日 平成24年1月19日（木）～20日（金）

場所 浦幌町立厚内小学校

参加者 15名（全校生徒・教職）

「鮭の一生」をテーマに、写真絵本を制作するワークショップの第3回目。最終回の今回は、昨年から子どもたちが描いたためた鮭にかかわる写真や散文をまとめ、写真絵本を完成させました。

長谷川仁「羊蹄山に降りつもる」

浦幌町

講師 長谷川仁（美術家・デザイナー）

実施日 平成24年1月12日（木）～13日（金）

場所 真狩村高等学校クラウンド・真狩村公民館

参加者 ワークショップ：21名（小学2年生・高校3年生）
上映会：55名

雪で羊蹄山をつくり、その雪の羊蹄山をスクリーンにして、花や動物、空の生き物など子どもたちが自由に描いたモチーフを雪に見立てて積み重ねる映像制作ワークショップと上映会を行いました。

若手芸術家発表事業

HAFアーティスト

能登谷 安紀子（ヴァイオリン）

模似町

コンサート

実施日 平成23年12月9日（金）

場所 模似町中央公民館

入場者 80名





▲日本劇作家協会&いわきアリオスプレゼンツ
東北劇作家パネルトーク
東日本大震災と演劇の「いま」
(2012年1月8日いわきアリオス小劇場)

From TOHOKU

いわきアリオスでは日本劇作家協会と提携して年3回のペースで「ドラマリーディングワークショップ」を開催してきた。集まって戯曲を読む、というワークショップである。足掛け3年、12回にわたるこのワークショップの最終回に合わせ、東北各県から劇作家を呼んだトークイベントを行うという企画を震災前から立てていた。昨年

3月の東日本大震災の影響はいわきでも大きく、公演をはじめとして全ての主催

アートのチカラ

地域とともにある劇作家たち
いいがたきことをことばに

東日本大震災の被災地でおこなわれている、文化芸術活動による地域復興。アートNPOやアート事業にかかわる方から寄せられた、「現在進行形」の声をお届けします。

事業を再検討する中で、当初の企画は「東北劇作家パネルトーク」として岩手から、くらしもひろゆき氏（盛岡市）、こむろこうじ氏（久慈市）、宮城からは、なかじょうのぶ氏（栗原市）、生田恵氏（仙台市）の、劇作家を招いた企画として形を変え、実施することになった。

被災の状況は似ているようで各地で違う。テレビなどの報道では、やはりその一部しか知ることにはできない。実際にそれぞれの被災体験を聞くだけでも、各地で大きく状況が違うことがわかった。そして、それぞれの地で、それぞれが試行錯誤をしつつ、創作を再開していることを知ることができた。

「311を生き延びたことは、これから表現者として避けて通れない」「記憶、体感したものを忘れないで、作品に反映させなければ」という宮城の劇作家なかじょうのぶ氏の言葉が特に印象に残った。

自分の中でも強烈な体験ではあつたが、いまだにしっくりくる言葉をつけれないでいる。演劇にかかわるものとして、劇作家たちに期待したいのは、こうした、この

のいわく言いがたい感覚を、どうにか表現という形にできないかということだ。演劇がおこなわれる空間の中に、演じるものと、それを観るものが一体となって共有するものの中に、答えがみつかるような気がしている。

震災の体験をもとにした創作は、いくつか計画されていると聞いた。特にくらしも氏は、震災当日に打合せでいわきに向かう途中で被災したそうで、なんとかいわきにたどり着き、翌日郡山、仙台を経由して盛岡に戻ったという経験をもとに新作を構想中だそう。どんな「ことば」が紡がれるのか、地域とともにあるアーティストの力を信じている。

いわき芸術文化交流館アリオス プロデューサー 今尾 博之

愛知県出身。パパ・タラフマラ（劇団制作）、茨城県つくば市の公共ホール勤務を経て、'07年より現職。主に演劇、ダンスの公演企画およびアウトリーチを担当する。

<http://iwaki-alios.jp>



福島県
いわき市



●アウトリーチ

実施日 平成23年12月9日（金）

場所 様似町立様似中学校

参加者 全校生徒136名

【北斗市】

●コンサート

実施日 平成23年12月15日（木）

場所 北斗市総合文化センター小ホール

入場者 130名

●アウトリーチ

実施日 平成23年12月16日（金）

場所 北斗市立上磯小学校、浜分小学校

参加者 全校生徒642名（上磯小学校）、3・6年生60名（浜分小学校）

【鉾田市】

●コンサート

実施日 平成24年1月26日（木）

場所 鉾路市民文化会館

入場者 155名

●アウトリーチ

実施日 平成24年1月27日（金）

場所 鉾路市立光陽小学校

参加者 全校生徒400名

【土浦市】

●アウトリーチ

実施日 平成24年2月13日（月）

場所 土浦市特別養護老人ホーム（第2長日園）

参加者 入所者他66名

●コンサート

実施日 平成24年2月14日（火）

場所 土浦市地域交流センター

入場者 119名

【文化の宅配便】

木管五重奏団 ウィンドアンサンブル・ポロゴ

【せたな町】

●コンサート

実施日 ワークショップ及び公演平成23年12月8日（木）

場所 せたな町民ふれあいプラザ

参加者 公演350名、ワークショップ30名



真狩村

http://www.makkarl.info/
ま っ かり む ら

人から人へ、そして一人から大勢へ。
生活シーンでのアートの可能性は、人を通して無限に広がっていきます。
地域の文化力を支えている、道内の町や村の活動者を紹介します。



取材・文／加藤 和代
写真／西山 大介



おはなし会では、読み聞かせだけでなく、寸劇やパネルシアター、人形劇などの上演も行っています。毎回必ず新作を交え、さまざまな手法で物語の楽しさを伝えています。

絵本の楽しさを伝え続ける

おはなしポテト 代表
浦 美加さん Ura Mika

子どもたちが読書に親しめる環境づくりに、地域全体で取り組んでいる真狩村。その中で大きな役割を果たしているのが、本の読み聞かせサークル「おはなしポテト」です。年4回のおはなし会をはじめ、小学校や保育所などで活動が続けて丸10年。会長の浦さんは、「おはなし会には、毎回50人もの子どもたちが、目を輝かせて集まってくれるんですよ」とうれしそうに話します。5年前に始めた、真狩小学校の朝読書では、本をお互いに貸し借りする子どもも増えるなど、手応えを感じています。読み聞かせには、真狩らしい作品も登場します。村の実話を真狩高校の生徒が紙芝居にした「局長さんとボチ」、名作童話をアレンジした「大きなユリ根」は、地域への愛着も芽生えそうです。

今年1月には、絵本に出てくるお菓子づくりを取り入れた会を初めて開き、大好評でした。「読み聞かせは、場所や手法次第でいろんな事ができるんです。地元のお店とコラボレーションした会も実現させたい」。本好きな大人たちの自由な発想が、子どもたちを心豊かな未来へ導いています。



真狩青年団体協議会 会長
野村 智治さん Nomura Tomoharu

「真狩赤坂奴」の伝承を担う

「エイイ ヨイヤッサーのサー」。毎年9月に開かれる真狩神社例大祭で、威勢のいいかけ声とともに村内を練り歩く真狩赤坂奴。昭和34年に、有志によって発足した郷土芸能で、昭和55年頃から真狩青年団体協議会が演舞を継承しています。

現在、赤坂奴を舞うメンバーは青年団会長の野村さんをはじめ15人ほど。絆天に手甲、脚絆、前

真狩神社の例大祭は毎年9月第一土曜。赤坂奴を始めて6年の野村さんは、伝統を守る責任をしっかりと受け止めながら、一つのことに向かって団結できる楽しさも実感しています。

掛けを身にまとい、毛櫓、挟箱などの道具を持った奴の行列が、神輿渡御に華を添えています。

「長い毛櫓をいかに美しく振れるかが、赤坂奴の難しさであり特徴でもあります」。ゆったりとしたリズムに乗って、腕の振りや足さばきを合わせるのとても大変だといいます。そのキレのある動きや勇壮な演舞に、多くの観衆が引き込まれています。

赤坂奴は、平成18年度に真狩村無形民俗文化財に指定されました。「いずれは自分たちが後輩を育てる番。今は先輩方の指導にしっかりと応え、郷土芸能を守っていききたい」。意欲に満ちた若い力が、これからも伝統の火を灯し続けていきます。

[真狩村農産物加工研究会 会長]

板敷 タカ子さん Irashiki Takako



地元農産物を加工・商品化し、普及に努める農家や住民有志のグループを牽引。特産品ユリ根の規格外品で作る「ゆりねのスイートコロッケ」開発などで、農産物の付加価値向上に貢献しています。

[泉流泉喜会]

福田 恵子さん Fukuda Keiko



いづれの名を持つ、日本舞踊・泉流の師範。今年34回目を迎えた文化事業「真狩村芸能発表大会」などに出演し、古典舞踊を通じて地域文化の振興、発展に寄与しています。

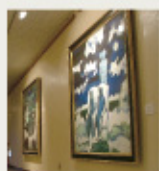
[歌手]

細川 たかしさん Hosokawa Takashi



真狩出身で、日本レコード大賞受賞曲「矢切の渡し」などで知られる演歌歌手。村内の公園にはヒット曲が聞ける記念像、道の駅には舞台衣装などを展示する記念館もあります。

国松 登ギャラリー



かつて真狩にアトリエを構え、10年前まで常設ギャラリーがありました。現在は、村所蔵の油彩画14点を、真狩村公民館で見ることができます。

フラワーロードが架け橋に

村づくり研究会 会長

佐伯 秀範さん Saiki Hidenori

村づくり研究会は、よりよい地域づくりを考える農家や教師、商店主など11名で、平成2年に発足しました。主な活動は、特産品の花ユリを主役にした村のPR。4代目会長の佐伯さんは、「真狩には何が足りないのか。先進地の見学などを通して考えながら、少しずつ行動してきました」と、20年以上続く活動を振り返ります。



メンタリー映画「森聞き」の上映など、新たな企画も進行中です。「自然に恵まれた大地が村のなにより財産。住民同士の絆が深いのも、真狩らしさかもしれません」。住みたい、住み続けたいと思える街づくりを目標に、次の一歩を踏み出そうとしています。



村の開基100年記念も兼ねて整備したフラワーロードは、毎年8月に見頃を迎えます。夜のお花見会など、花を軸としたさまざまな企画も展開しています。

豊かな自然を糧に、北の大地ならではの食文化を育む北海道。地域の食育活動を紹介します。



真狩村の食育

シェフが取り組む、農村ならではの実践的授業

羊蹄山の南麓に位置し、農業を基幹産業とする真狩村。この村に平成9年のオープン以来、全国から食通が通うオーベルジュ「マッカリーナ」があります。グランシェフの菅谷伸一さんは、まだ「食育」という言葉が知られていない10年以上前から、村内の小・中・高等学校と連携し、地元の食材を使った味覚教室や料理指導に取り組んできました。

レストランで行う味覚とマナーの教室や、種まきから収穫、レシピの考案も行う調理実習。菅谷さんの食育は、子どもたちが実際の体験を通して学ぶことを大切にしています。「甘い、苦い、酸っぱいなどいろいろな味があるし、苦手な味でも、組み合わせ次第でおいしく感じる。それを自分の舌で覚えることは、豊かな味覚を形成する上で、とても大事なことです」。

逆に、生徒がレシピを考える調理実習では、菅谷さん自身が学ぶこともあるそう。「セオリーに基づいてつくる料理と違って、子どもたちには固定観念がない。食材や調味料の意外な組み合わせに、新たな発見があって面白い」と言います。

料理人の立場として活動しながらも、「一番大切なのは、家庭での取り組み」と菅谷さん。お母さん方への料理教室も行いながら、食べ物本来の味、旬、楽しみ方などを伝え、これからも村の豊かな食生活をサポートし続けます。



◀料理人であり、農家や職人の顔も持つ菅谷さんからは、興味深い話がたくさん飛び出しました。今後は、生徒がより積極的に発言できるように授業展開を模索中です。

Report 1

平成22年度の「まちの文化創造事業」の共催事業から、特徴的な団体の活動を紹介します。

まちの文化創造事業・シアタープログラム

帯広市

財団法人帯広市文化スポーツ振興財団、市民バレエ「ティアラの会」、
帯広交響楽団、帯広市民劇場運営委員会、帯広市教育委員会地域のダンサー、地元のオーケストラ、合唱部が共演
バレエ「くるみ割り人形」で迫力ある舞台を創造

生のオーケストラ演奏とコーラスと共に、十勝管内にある12のバレエ団体のダンサーが共演して創り上げた舞台。それが帯広市民バレエ公演「くるみ割り人形」です。

平成22年度の第2回公演では、指揮者として、新国立劇場バレエ研究所講師で、日本有数のバレエ音楽指揮者である福田一雄さんを招へいし、振付は日本バレエ協会北海道支部理事の榎谷博子さんが担当。小学生から社会人まで約160人の地元ダンサーが、帯広交響楽団、稲田小学校合唱部、東京と札幌から迎えた男性ゲストバレエダンサーと共に、華麗な踊りを披露しました。

「地域のバレエ界が集い、一つの演目で共演する」という、全国でも稀な舞台が実現した背景には、帯広の市民オーケストラである帯広交響楽団の存在があります。帯広交響楽団は、市民や企業からの賛助金と行政支援によって運営されている、全国でも珍しい地域支援型のアマチュア・オーケストラ。

昭和62年の発足以降、プロの指揮者の指導を継続して受け、質の高い音楽づくりに取り組んでいま

す。市民の期待に応える幅広い演奏活動を図る中で、平成9年に「カルメン」、平成11年に「魔笛」という市民オペラを上演したことから、舞台づくりに参加したバレエ関係者から「次はぜひ、フルオーケストラ演奏でのバレエ公演を」との声が上がり、平成16年の第1回公演につながりました。

「オーケストラとの共演は、やはりダンサーにとっては憧れですし、なかなか実現も難しいこと。迫力ある本格的な舞台を経験することで、参加した子どもたちの励みにもなりました」と、帯広市文化スポーツ財団の木下富雄さんは言います。また、この共演を機に、地域のバレエ界に同じ芸術活動をおこなう同志としての意識も育まれ、地域の芸術祭に参加する団体が増えたのだそうです。

「バレエを始めた子どもたちに活動を続けてもらうには、先の目標となる活躍の場が必要。地元の公演だけでなく、例えば札幌で公演するなどの機会もつくれたら」と夢は膨らみます。市民バレエの上演は6年ぶりとなりましたが、これは帯広交響楽団に独自の活動予

■まちの文化創造事業
シアタープログラム

地域のみなさんが参加する自主的・創造的な、音楽・演劇・舞踊等の舞台発表活動及び普及活動（ワークショップ、レクチャー等）を共催します。

- ・公募キャスト、スタッフによる市民参加の舞台公演など
- ・複数地域から参加する演劇祭、音楽祭など

第2回帯広市民バレエ
「くるみ割り人形」公演

平成22年12月11日（土）・12日（日）
場所／帯広市民文化ホール 大ホール



舞台創造支援事業
いわみざわドラマシアター
「霜月駅ばあさんのこと」

岩見沢市民が参加する市民劇「いわみざわドラマシアター」の第4回公演。

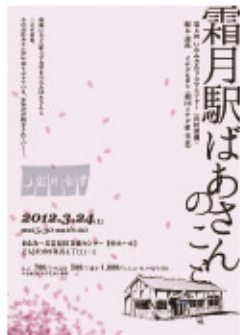
脚本・演出 イナダヒロシ(イナダ組 代表)

場 所 まなみーる岩見沢文化センター(中ホール)

開催日時 平成24年3月24日(土)開場15:30 開演16:00

内 容 廃線になった駅舎「霜月駅」で食堂「霜月食堂」を営むおばあさんが年を取りボケていき、家族達が翻弄されていく…。

料 金 大人 700円/中高生 500円/
親子1,000円(大人1名、中高生2名)



文化情報ライブラリーのご案内

アート スペースの隣りに、文化や舞台芸術について、「読む」「聞く」「見る」ことのできる「文化情報ライブラリー」を運営しています。
お気軽にご利用ください。



北のとびら

広告募集のご案内

(財)北海道文化財団の情報誌「北のとびら」(年4回/8,000部発行)では、裏表紙に広告スペースを設けています。

全道の市町村・文化ホール・文化施設・高等学校・銀行など、さらには国の機関、都府県・政令指定都市、文化振興財団など約1,800ヶ所に配付しています。
貴社の企業広告媒体としていかがですか。

■掲載枠の仕様

- (1)掲載スペース:最終16ページ(裏表紙)
(2)掲載サイズ:A4誌面サイズの

サイズ	最大設定枠数
1/8	8枠
1/4	4枠
1/2	2枠

左記のいずれかとなります。詳細については、ご希望の内容によりご相談させていただきます。

(3)仕様:4色フルカラー

(4)掲載版下:貴社製作物又は既存版下(デジタルデータ)

定期購読のご案内

情報誌「北のとびら」(年4回発行)の定期購読をご希望の場合は、当財団へお問い合わせください。

(個人の方への送付の場合は、切手を負担していただいています)

Report 2

まちの文化創造事業・シアタープログラム

釧路市

財団法人釧路市民文化振興財団、くしろ椎名豊JAZZ CLUB

日本を代表するジャズピアニストが、継続的に指導
中学校の吹奏楽部生とOB&OGが共演



中学生が、日本を代表するジャズピアニストと共演。ソロで堂々とアドリブ演奏—そんな夢のようなステージが、「椎名豊 Quintet SPECIAL JAZZ CONCERT」で繰り広げられました。

平成11年、釧路エリアの富原中学校では、縁あって世界で活躍するジャズピアニスト・椎名豊さんによる吹奏楽部への指導が実現し、その折、椎名さんの好意により、ステージで共演する機会が設けられました。以来毎年、椎名さんが釧路に訪れて指導しており、現在では市内6つの中学校の吹奏楽部生と、そのOB&OGが、年5、6回の指導を共に受けています。

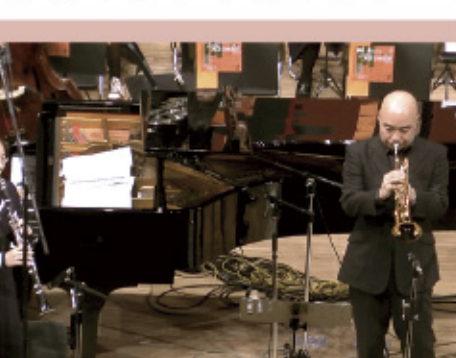
12回目となる平成22年のコンサートでは、中学生約50名、OB&OG約30名が参加。第一部で椎名豊さんと4名のプロミュージシャン

が迫力ある演奏を披露した後、第二部の冒頭で、吹奏楽部OB&OGによるビックバンドが椎名さんと共演。続いて中学生が加わって演奏し、スタンダードナンバー「Cジャムブルース」では、生徒が代わる代わるソロ演奏を行いました。

「最初に椎名さんから『アドリブ演奏をしましょう』とさそれた時、『それは無理では?』と言ったんです。それが今では、ジャズ通のお客様に『なかなかいいアドリブがあったよ』と褒められるまでになりました」と、釧路市立北中学校で、吹奏楽部指導にあたる近江、ソロでアドリブ演奏をするのを楽しみに入部する生徒もいるそうです。

指導では、ジャズならではのメロディーやリズムのおもしろさを、

を、椎名さんのピアノ演奏や、有名なビックバンドの演奏を用いて解説。その後、手拍子のアドリブに挑戦し、それを楽器の音に替え、二音にし、やがてメロディーのアドリブができるように導くのだそうです。平成23年12月には、13回目のコンサートを開催し、お客さんから「年々レベルアップしているね!!」との声も聞かれました。



椎名豊Quintet SPECIAL JAZZ CONCERT
2010 12th

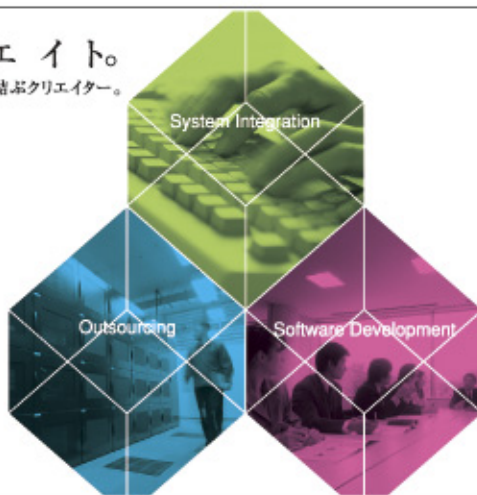
平成22年10月30日(土)

場所/釧路市生涯学習センターまなぽと 大ホール

る感動を体験し、人生の自信としてくれること。高尾教諭は「一流の演奏家の手厚い指導と評価、そして共演があるからこそ、大きな自信、得難い体験となる」と、この事業の継続に向けた熱意を語ってくれました。

ITで未来をクリエイト。

私たちHBAは、お客様とお客様の未来を先進のITで結ぶクリエイター。



3つの事業をリレーション。

最適な情報システムの提案、構築、運用を
万全のセキュリティで総合的にを行います。

●システムインテグレーション事業

求められるニーズに対し基本設計から保守に至るまで総合的なソリューションを行います。

●アウトソーシング事業

万全のセキュリティ対策で、お客様の事業における情報化投資の削減をサポートします。

●ソフトウェア開発事業

プロジェクトマネジメント力を生かし、確かな品質と最先端の技術力を提供します。

HBA 株式会社 HBA

〒060-0004 札幌市中央区北4条西7丁目1番地8
TEL.011-231-8301 FAX.011-281-0915
<http://www.hba.co.jp/>



Arte & Gourmet ミュージアムレストランで味わう 自然の恵みを贅沢に使った新感覚フレンチ



札幌宮の森美術館
ミュージアムレストラン コンテ・ドゥ・フェ
札幌市中央区宮の森2条11-2-1
宮の森ミュージアムガーデン内
Phone:011-621-2100
Lunch time open 11:30 - close 15:00 (L.O.14:00)
Dinner time open 17:00 - close 22:00 (L.O.20:30)
完全予約制 火曜定休 駐車場有
<http://www.mmg-w.jp/restaurant>

お取引に応じてうれしいサービス!

道銀取引優遇サービス[ステップドゥ]

**ステップ
Do**

うれしい
サービス

道銀ATM・コンビニATM
時間外手数料 **0円**

※手数料は利用された普通預金口座へ翌月ご入金いたします。
※コンビニATMをご利用の場合は別途利用手数料105円がかかります。

Doポイントクラブ 提携先のマイル・ポイントに交換できる

**Doポイントが
毎月自動で貯まる**

**ステップドゥは
お申し込みが必要です。**
※年会費・手数料はかかりません。

お申し込みはカウンター1階もしくは窓口または
当行ホームページにてご確認ください。
<http://www.hokkaidobank.co.jp>

**どさんこバンク
北海道銀行**

充実サービスの老舗スパ・サウナ「ニコリーフレ」!!

ロウリュ/天然鉱石風呂/サウナも水風呂/ボディーケア/あかすり/音響2万回/TV付きカプセル/充実飲食メニュー/宴会136名!

**体感100度の
熱風で爆汗体験!**
ニコリーフレ名物イベント

ロウリュ

毎日開催 ①13:00 ②14:00 ③15:00 ④16:00 ⑤17:00 ⑥18:00
⑦19:00 ⑧20:00 ⑨21:00 ⑩22:00 ⑪24:00

サウナパフォーマンス「ロウリュ」とは

古来フィンランドから伝わる入浴方法で、熱したサウナ内にアロマを含んだ専用の水をかけ、蒸気した空気の熱をタオルで拭き、熱風で一気に発汗を促すサウナパフォーマンスです。ロウリュ特有の熱風の効果で、一気に全身が温められ、大量に発汗することができます。さらにサウナ室内には調湿的にマイナスイオンが発生し、極上のリラクゼーション効果があるとされています。



**世界初! プラズマクラスター
イオンサウナが登場!!**

ニコリーフレのサウナは、浮遊力抜群等の作用を抑えるクリーンなサウナです。

リフレのサウナは
快適&安全!!



サウナひとすじ44年
スパ・サウナ カプセル **ニコリーフレ**

ご予約・お問い合わせは **tel 011-261-0108**

ウェブサイトも充実! **www.nikoh.info**
モバイル **www.nikoh.info/mobile**

札幌市中央区南3条西2丁目(201-4F・狸小路2丁目3条通側)

男性専用 **24時間営業** **年中無休**

スパ・サウナ 通常価格 **¥2,000**
カプセル 通常価格 **1泊 ¥2,700~** **手ぶらで来店OK!**

※サウナご利用の際は、AMOM(入浴)の入浴、また休憩はAMOMを過ぎる場合、清潔料別途¥500。

本誌持参で「スパ・サウナ」が特別価格に!
＜通常価格¥2,000のところ＞
2012年3月末まで 特別価格 ¥500

※お一人様1回限り
本誌持参不可
※表示価格はすべて税別